

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	36	学校名	静岡県立静岡東高等学校	校長名	宮田 治幸
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア	授業改善と確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業参観年3回以上 100% ・「授業を通して新たな知識や考え方を身に付けた」と答える生徒の割合 全科目で80%以上 ・教員の教科指導セミナー参加者人数 5人以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期までの全教員の参観回数年3回以上の割合は90%であった。 ・授業アンケートを実施した58科目中57科目で80%以上を達成することができた。 ・予備校が主催する対面またはオンラインのセミナーを、国、数、英、理、地歴の各教科から1名ずつ5名が受講した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとの「授業参観週間」の設定、年次別研修者や教育実習生の研究授業日の情報提供を通して、多くの先生方が授業参観しやすい環境を整えた。 ・98%の科目で目標を達成した。 ・コロナの制限が緩和されたため、直に講座内容を学ぶことができる対面講座への参加が増えた。 	研修 情報
		<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年家庭学習時間平日1日平均最低90分、目標3時間以上 ・1、2年11月進研模試偏差値平均 55以上 ・大学入学共通テスト平均点 全国平均+5%以上 ・学習支援プラットフォーム(Classi)の学習指導への活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト前の家庭時間調査に変更して2年目。目標は達成されている。 ・1年55.3、2年56.0であった。 ・入試センターの中間報告との比較で、文系理系とも達成できなかった。文系では-8点、理系では-3点平均点に及ばなかった。 ・Classiの学習記録・生徒カルテで現状を共有できた。また、学習トレーニングで共通テスト「情報」対策を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体では、定期テスト前に調査を実施した。テストに向けて意識付けはできた。 ・1、2年での模試偏差値での成績が3年まで継続されない。3年になってからの学習時間は増加しているが、やはり1、2年での学習の定着度に問題がある。 ・学習支援プラットフォームについては、他社のものと比較検討の必要がある。 	進路 学年
		<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程・共通テストに対応する体制の確立 ・3年間を見通した進路指導計画の検証と改善 ・Classiによる活動履歴蓄積の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の理念を理解し、日常の授業に反映できるよう取り組んでいる。 ・進路指導計画の大きな行事の大学模擬授業では、生徒から「予想とは違って興味深かった」という声が各講座から聞かれ、生徒の視野を広げる一助になった。 ・3年調査書作成に役立てた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、共通テストに対応する教育課程の検証を進めたい。 ・実力テスト、補習のあり方について、検討していきたい。 ・1、2年の新様式の調査書に対応できる活動履歴の蓄積の在り方を検討したい。 	教務 進路 学年
		<ul style="list-style-type: none"> ・「授業を通して新たな知識や考え方を身に付けることができた」生徒 80%以上 ・「社会の様々な課題の解決に向けて、自ら主体的に関わろうと思う生徒」 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「そう思う」「まあそう思う」の合計が95.0% ・「そう思う」「まあそう思う」の合計が84.9% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら学び、知的満足を得られるよう支援していく。 ・本校の生徒に期待される姿を実現できるよう、生徒を育てていく。 	探究 学年 各教科
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取組状況・姿勢について、「自ら進んで取り組んでいる生徒」 70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生 24.4% 2年生 36.9% 3年生 63.8% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の具体的な取り組みや、よい現れへの価値付けが不足していた。生徒にほんとうの自信を持たせられる教育を推進していく。 	教務 学年 各教科

様式第3号

ア	授改善と確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末の活用 情報機器を活用した学習機会の拡大 授業や探究学習でのICT活用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> テスト採点支援システムの導入により、生徒へのフィードバックや授業改善に効果的であった。 1、2年生の端末整備が完了し、本格的な運用が始まっている。各教科にて効果的な活用について実践が行われている。 探究では、Googleスライドでチーム内の共同作業を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、各教科で授業における端末活用の実践を積み重ねていきたい。 	教務 情報 探究 各教科
イ	志の育成と進路目標への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> 大学訪問 生徒各自の目標達成率100% (オンライン説明会参加も含む) 大学入学共通テスト5教科型受験率80%以上 ハイレベル模試受験者数 学年各30人以上 大学模擬授業 生徒満足度90%以上 県内国公立大学合格者数 60人以上 国公立大学現役合格者数 卒業生の50%以上 難関国公立大学(※1)合格者数 10人以上 難関私立大学(※2)合格者数90人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年でオープンキャンパスに参加するように呼びかけている。3年間で考えれば、100%の達成率である。 大学入学共通テスト5教科型受験率は83.8%であった。 ハイレベル模試受験者は、1年20人、2年39人である。 全ての講座で満足度は9割を超えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で進路選択を考えさせるうえで重要になる。オープンキャンパスの参加を継続させたい。 国公立大学を目指すためにも、今後とも5教科型受験率80%以上を維持させたい。 入学時の学力層の低下見られる中、ハイレベル模試のあり方を見直す必要があるかもしれない。 大学模擬授業は、行事としての意義は大きいですが、単発的でもあり、できれば継続的に大学の研究に触れる機会を設定できるとよいと思われる。大学の先生をお招きするにあたり、交通費くらいは出せると交渉しやすい。 	進路 学年
		<ul style="list-style-type: none"> 「専門教養講座」の単位取得者 5人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 今年は静岡県立大学のみ開講となり単位取得は3人であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 大学との連携を密にし、5人以上の単位取得を目指す。 	教務
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒個人面談回数 年間5回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 年間5回以上の面談の機会を設定できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 面談内容についても進路課との連携を強化する。 	教務
		<ul style="list-style-type: none"> 静岡大学実験講座 参加者数20人以上 満足度90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者18人 満足度 100% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「大学の様子がよく分かった」「高校の勉強の大切さが分かった」等の感想を得た。 	※3
		<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行生徒満足度90%以上 SDGs等に関する各種外部コンテスト・プレゼン大会に参加する生徒 30人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度95.8% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1日目～4日目の全ての日程で満足度90%超であった。 代表となるチームの生徒は意欲が高く、内容も充実していた。 	2年部 探究
		<ul style="list-style-type: none"> SDGs terakoya 参加者の満足度90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> SDGs Terakoya参加者25人 満足度100% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2日間の日程になったが、生徒は充実感を得ていた。 	探究 英語科
		<ul style="list-style-type: none"> 英語外部検定(GTEC等「学びの基礎診断」) CEFR B1レベル60人以上、A2レベル 500人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年生のGTEC結果はCEFR B1以上64人、A2以上558人 	B	<ul style="list-style-type: none"> リーディングでは、共通テストのスピードに対応できる力を養う必要がある。 	英語科

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ウ	自主自律の精神と豊かな人間性の育成	・遅刻生徒数 1日平均全校で5人以下	・1日平均11.7人	C	・新型コロナ以降、遅刻者に限らず、欠席者も含め大幅に増え続けている。効果的な対策を検討していきたい。	教務 学年
		・東陵祭生徒満足度80%以上 ・「自ら挨拶をしている」と答える生徒90%以上 ・各部活動の目標達成率 80%以上 ・最終下校時間19:30の遵守	・東陵祭生徒満足度（積極的に取り組めた生徒）95.9% ・「自ら挨拶をしている」と答える生徒：88.4% ・部活動の目標達成率：78.8% ・最終下校時間19:30は遵守できた。	A	・「満足度」より自らの課題に気付き向上への意識を高めることを重視したい。 ・部活動等の場面においては挨拶ができています。日常生活にも波及させたい。 ・目標を高く設定している部活動では目標達成率が低くなっている。 ・活動後速やかに帰宅する等切り替えを意識させたい。帰宅時間にも配慮したい。	生徒
		・初期指導を効果的に実施する中で、「高校生活指導プログラム」の見直し ・情報モラル講座の実施、関連の生徒指導0件	・現在の学校の実態や指導の実態に合っていないため、実動していない。 ・情報モラル講座は6月に実施した。SNS不適切使用生徒指導1件	B	・かつては指導の柱となるものであったが、指導の在り様がプログラム作成当時とは変わってきている。必要な指導を必要なタイミングで行うことで問題ない。	学年 生徒 ※4
		・文化教室 生徒満足度 80%以上 ・ビブリオバトルの実施 ・図書館の貸出本冊数12,000冊以上	・オペラ、ミュージカルの鑑賞は初めてという生徒も多く、講演後のアンケートは好評の声が多く寄せられ、満足度も高いものであった。 ・ビブリオバトルはクラスで盛り上がったという報告を受けた。2年生は昨年よりも内容が充実しており、活動を楽しめたという感想が寄せられた。 ・貸出冊数は例年よりも早いペースで10,000冊を超えた。3月末までには12,000冊を超える勢いである。	A	・文化教室は古典芸能（落語）が好評を得ることが多い。3年に1回は落語を実施したいと考える。 ・ビブリオバトルは読書推進活動の一環としてだけでなく、生徒のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高める意味も持つ。学校行事として継続したい。 ・10,000冊達成はここ数年安定している。次なる目標として、図書館を一度でも利用したことのある生徒の割合を高くすることを目指す。	図書
エ	心身の健康と命を守る教育の推進	・重大な生徒交通事故件数0件	・重大なものはなかった。	B	・交通事故件数そのものは減少していない。	生徒
		・「ほけんだより」の発行回数5回以上と発行方法の工夫 ・保健教育（集団指導）の実施	・計画通り発行できた。 ・例年通りの講座の開設の実施と、新たに性の多様性講座を実施することができた。	A	・救命救急講習の生徒参加を検討する。 ・性の多様性講座の継続実施したい。	保健

エ	心身の健康と命を守る教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・グループエンカウンター（1年生）の実施 ・セラ・プラスの実施と活用 全学年 ・相談室連絡会を定期的に開催し、課題を有する生徒についての情報共有、適切な支援策の作成・実行により、生徒支援の充実を図る。 ・丁寧な生徒観察と早めの声掛けを実施し、関係職員やSCとの情報共有等、困難を抱えた生徒に対する組織的な支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスに事前に指導案を提示し計画的に実施した。 ・5月上旬に全学年を対象に、長期欠席中の生徒以外はすべて実施した。 ・相談室連絡会議を毎月、計画的に実施した。 ・スクールカウンセラーとの間で、支援・指導計画の立案、情報共有を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・構成的グループエンカウンターの実施により早期の生徒理解、学級のより良い雰囲気づくりに資することができた。より実施しやすい内容の検討が必要である。 ・検査結果を知ることにより生徒の理解が深まった。また、面談や日常の生徒指導・支援に活用することができた。実施時期をできるだけ早めたい。 ・相談室連絡会議により、個々の生徒の課題や問題点を把握することについて教員間の情報共有ができた。これまで以上に、支援・指導へ繋がるようにする必要がある。 ・スクールカウンセラーの面談結果を活用し、生徒の支援・指導に資することができた。カウンセラーとの情報共有の時間を個別に設定する必要がある。 	相談 学年
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練への生徒参加率 80%以上 ・一斉メール配信を活用した安否確認訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練への生徒参加率 1年生：73%、2年生：4% ・情報課との連携のもと、4月の訓練時に実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の80%以上を達成することはできなかった。来年度、より参加率を向上させるために早くから生徒・保護者への連絡をしていきたい。 ・安否確認の実施回数について、検討していきたい。 	総務
オ	積極的な広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜公開授業の参加者数 計1,600人以上 ・土曜公開授業外部評価満足度90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜公開授業参加者数1720人 ・土曜公開授業アンケート満足度 93.6% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜公開授業の適切な回数について検討の余地がある。 ・部活動公開日への参加者が少なく、中学生と保護者の関心に応じて実施する。 	管理職
		<ul style="list-style-type: none"> ・土曜公開授業での校内美化点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会による前日及び当日朝の点検実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎移転に伴う大幅な変更への対応を行う。 ・別館トイレ清掃および点検を行う。 	保健
		<ul style="list-style-type: none"> ・HPのタイムリーな情報発信と週2回以上の更新 ・HPにおける各部活動の活動報告 学期1回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・Instagram及びX(旧Twitter)などのソーシャルメディアの公式アカウントの運用を開始した。HPとソーシャルメディアとの棲み分けを行い、昨年以上にタイムリーな情報発信を行うことができた。一部の部活動でもソーシャルメディアによる情報発信を開始した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、中学生、保護者、地域へ積極的な情報発信を行う。 	情報

※1 北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州、東京工業、一橋、神戸、医学部医学科

※2 早稲田、慶応、上智、ICU、東京理科、学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政、関西、関西学院、同志社、立命館

※3 理系高大連携推進委員会

※4 いじめ防止対策委員会

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
カ	業務改善と働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室窓口へのクレーム件数 0件 ・施設設備等の不具合による事故 0件 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口へのクレームは無かったが電話での問合せは数件あった。 ・不具合による事故は無かったが修繕箇所が増えてきている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き丁寧な対応を行っていく。 ・事故が無いように、迅速な対応をしていく。 	事務
		<ul style="list-style-type: none"> ・保健室や職員室の共用スペース等を片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室、共有スペース、休養室等整理整頓ができています。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎移転に伴い共有スペースも変更あり。清掃方法の確認なども必要である。 	保健
		<ul style="list-style-type: none"> ・「信頼できる先生がいる」と答える生徒80%以上 ・配付されたGoogleアカウント内のチャット機能により、勤務時間外も含めた非常時に、管理職・運営委員が迅速な情報共有と意見交換を行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼できる先生がいると答える生徒82% ・勤務時間外に即時対応すべき案件がなかったため、利用はなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の強みの1つとして、引き続き個々の教員の持ち味を生かした学校経営を行っていく。 ・本年は利用がなかったとはいえ、危機管理、非常事態の対応準備は必要である。大規模地震等にも備え、非常時の情報共有の手段は用意する。 ・チャット機能を伝言等の連絡に利用してみる案もある。 	管理職
		<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の整理や部活動の統廃合による校務整理 ・各種調査、教材研究等積極的にICT機器を活用し、校務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の統合について、内規に従って検討した。 ・ペーパーレスを推進し、学校経営予算の正常化に貢献できた。 ・校内での運用するシステムを再検討し、目的に応じたシステム選定ができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度からは、煎華道部とホームメイキング部を募集停止にする。部活動の在り方については、長期的な展望と学校の魅力という両面からの検討が必要である。 ・新たなシステムを導入し校務のデジタル化を推進する。 	管理職 情報
キ	新校舎建築に関わる業務の遂行	<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計（校舎配置、諸室配置、仮設校舎等）について、職員に丁寧に説明し、それに対する意見や要望を集約する。 ・設計に関する学校の意見を県教委や営繕担当課に的確に伝え、適切に意見交換や情報交換に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設計やスケジュールについては、速やかに説明し、意見や要望の集約を行った。そのことについて、県に伝えたところ、概ねいい回答を得られた。 ・校舎建替に関する大小様々な問題について、ワーキンググループで検討・原案づくりを行い、校舎建替検討委員会での承認を得て、職員会議に諮った。 ・仮設校舎の業者も入札も終了、職員の希望や意見を検討していく予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、建築工事が始まっていくので、漏れがないように進めていく。 ・これから多くの課題を解決して、対応していかねばならない。先行事例の情報を生かし、よりよい校舎建築を実現したい。 	管理職 事務
ク	オンライン・ハイスクールの成果の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・外部専門機関・地域連携による探究的学習の充実 ・県立大学との連携による探究的学習への参加者数延べ30人以上 ・地域との連携による探究的学習への参加機会20回以上 ・生徒の成果発表の回数50回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs Terakoya25人、SDGs相談会31人 計56名 ・学習ボランティア延べ92人（3回実施） ・様々な形での地域連携に取り組み生徒の視野を広げた（小・中・大学連携、自治会連携等） ・分野別代表としての発表、学校代表として外部での発表を合わせ、39グループが成果発表に取り組んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Terakoya（2日間）の生徒の満足度は高かった。 ・相談会には「環境」について探究する2年生が参加した。 ・静岡大学、静岡県立大学、静岡共育ネット、探究アドバイザーとの連携により充実した学びを得た。持続可能な形を模索しつつ継続していく。 	探究